

二十歳の誓い

私はこれまでの20年間ここ、京都で生活してきました。これまではずっと姉の後を追うように同じ幼稚園から高校まで進学し、当たり前のように姉と同じ大学に行くつもりでした。祖父や父も卒業した憧れの大学で合格できると思っていました。

しかし、結果は不合格。初めての挫折でした。

長年の夢が断たれただけでなく、応援してくださった先生方の期待に応えられなかったという申し訳なさ。打ちのめされた気持ちで目の前が真っ暗でした。通い始めることになった大阪の大学は遠くて、知っている人は誰もいない環境で本当にやっていけるのだろうか、重苦しい気持ちで電車に乗っていたことを覚えています。

ところが大学で茶道部に入ったことで、私の心は一変しました。たくさんの友人ができたことはもちろんですが、お茶会で着物を着ると『京都出身だから、着慣れている』などと言われ、気恥ずかしいながらも、京都を離れたことで改めて京都を感じ、京都の文化や歴史に関心を持つようになったのです。

私は今医師を目指していますが、京都特有の文化の中で、医療にも生かせるのではないかと気づいたことがあります。それは『一見さんお断り』という文化です。初めての方はお断りするという『いけずな京都』と思っている人がありますが、好みをよくわかった上でその方だけの最高のおもてなしをする、まさに『オーダーメイドサービス』なんだと知りました。

実は私の祖母は病院から帰ってくるたびに『新しい先生に診てもらいより今までずっと診てもらってきたあの先生がいいわ』と言っています。たとえ先生の専門外の病気であってもなんでも相談して帰ってくるのです。これこそが、患者さんの様々な背景を把握した上で最善の治療を見つけるという『オーダーメイド医療』で、私が将来目指したいと思っているものです。もちろん医療の世界において一見さんお断りはありえません。でも患者さんと向き合うときに、『その方だけの治療』というのが大切なキーワードだと思っています。

京都の言葉は物腰が柔らかくて他の人に相談するより話しやすいと言われます。これまで意識せず話してきた京言葉ですが、はんなりと包容力のあるこの言葉を大切に、将来は生まれ育ったここ京都で市民の健康を守るために働き、患者さんの立場に立てる医師を目指すことを私の20歳の誓いといたします。

今日は私たちのためにこのように盛大な式典を開催いただきまして本当にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

平成29年1月9日 新成人代表 飯沼 紀実